

## 山の百名花

## 読者員 半田 隼

## 【9】レンゲシヨウマ

梅雨が明けると、東京は格別の暑さでした。この時期、近郊の低山は日陰も少なく登るには不向きですが、どうしてもレンゲシヨウマが見たくて、8月中旬、御岳山まで出かけました。日中の暑さを避け、夕方のケーブルカーで滝本から御岳山駅まで登ります。折しもレンゲシヨウマ祭りをやっております。登山道に沿って旗が立っていました。

レンゲシヨウマはうす紫色の可憐な花です。花が蓮に、葉がサラシナシヨウマに似ているので、この名がついてということだと思います。恥ずかしがり屋なのか、すんなりした茎に、うつむき加減に花が下を向いて咲いています。そのため、花の写真を撮るのに苦労しました。高さは50センチくらいでしょう。山の斜面一面に咲いていました。その夜は、御岳山の宿坊に泊まりました。泊まり客は他になく、手作りのこんにやくを食べながら、御岳山の昔話を聞きました。レンゲシヨウマは何十年も前から山に自生

していた花だそうです。余りにも控えめな花なので、ハイカーたちの目に留まることがなかったとか。近年大々的に宣伝され、夏場も観光客が押し寄せるようになって驚いたと宿坊の奥さんが話していました。山頂は、朝晩とても涼しくクーラーが要りません。撮った写真は、毎年夏になると額に入れ眺めては楽しんでいきます。



## 【10】ハマナス

昨年の六月中旬に、3泊4日の日程で知床を訪れました。知床は本格的な観光シーズンが始まる前で、地元のガイドさんの案内で、のんびりと羅臼湖などの大自然を見て回ることができました。知床は夏が始ま

ったばかりだと聞いていたので、念のため長袖を着ていきましたが、汗ばむような陽気でした。

女満別空港で出迎えを受け、最初に車で連れて行ってもらったのは、小清水原生花園でした。真っ青な空に向かって、真っ直ぐに伸びた国道の脇で車を止めると、道路沿いにハマナスの花が咲いていました。知床と聞くと、『知床旅情』の一節「知床の岬にハマナスの咲く頃」を思い浮かべますが、間近で実際に見ると、感慨もひとしおです。

ハマナスはバラ科の花で、良く見ると鋭い棘があり、北の大地でたくましく生きている様子が分かります。色は濃いピンク色で、華やかさの中に気品があります。ガイドさんの話によると、花を楽しんだ後は、赤い実を焼酎に漬けて、ハマナス酒を作ることができるとか。飲んだことがないと言うと、その夜、自家製のハマナス酒をホテルまで届けてくれました。

知床が世界遺産に登録されたのは、それから数週間後のことです。もちろん、知床の旅を思い出しつつ、ハマナス酒で乾杯しました。